

『キラメキの発想』 2025 年 6 月 9 日放送用補足Q&A

ラジオ NIKKEI 『キラメキの発想』で OP 売坊先生が使用した資料の補足Q&A です。

<資料 P2>

——日経平均が5月下旬に 38500 円を試してから弱含みとなっているように見えるなか、6月13日には日経 225 ラージ先物 6月限が満期となり残玉が SQ（特別清算値）で決済される「メジャーSQ」があります。そこに向けて、どのような点に注目されていますか？

火・水曜日の若干 OTM（現在値から離れ、買い方が行使しても価値がない権利行使価格）の CALL と PUT の値動き（プレミアム動き）、出来高と建玉残高に注目しています。なお、今回はメジャーSQにもかかわらず、1万枚以上の建玉がある権利行使価格の OP が6日現在、40000 円の CALL しかありません。トランプ関税によって相場が一気に変わりますので、仕掛けにくいということでしょう。

——6月17日に日銀で政策金利の発表があります。ドル円が現水準の 142~144 円から大きく上昇してこないかぎり、「利上げ」の可能性は薄いとみているのでしょうか？

円安が 150 円近くにまで進行してないと、日銀が利上げをする可能性は低いと考えています。

——6月18日には米国の FOMC（連邦公開市場委員会）で政策金利（FF レート）の発表があります。トランプ大統領は「利下げ」を求めています、その可能性について売坊先生は、どのようにみていますか？

現状維持とみています。下記は6日現在の FED ウォッチ（米国の大手先物取引所「CME」に上場する FF レート先物から逆算された市場参加者の FOMC 予想）です。市場参加者の 99.9%が現状維持とみています。

CME FEDWATCH TOOL - CONDITIONAL MEETING PROBABILITIES									
MEETING DATE	225-250	250-275	275-300	300-325	325-350	350-375	375-400	400-425	425-450
2025/06/18				0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	99.9%
2025/07/30	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.5%	83.4%
2025/09/17	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.6%	51.2%	40.2%
2025/10/29	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.2%	29.5%	45.8%	20.5%
2025/12/10	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.4%	18.8%	38.9%	31.2%	8.7%
2026/01/28	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	8.2%	25.9%	36.2%	23.2%	5.6%
2026/03/18	0.0%	0.0%	0.4%	4.2%	16.2%	30.6%	30.3%	15.2%	3.1%
2026/04/29	0.0%	0.1%	1.2%	6.8%	19.3%	30.5%	27.0%	12.6%	2.4%
2026/06/17	0.0%	0.5%	3.3%	11.5%	23.6%	29.2%	21.6%	8.7%	1.5%
2026/07/29	0.1%	1.0%	4.8%	13.7%	24.6%	27.8%	19.2%	7.4%	1.2%
2026/09/16	0.3%	2.0%	7.0%	16.4%	25.4%	25.7%	16.4%	5.9%	0.9%
2026/10/28	0.6%	2.7%	8.5%	17.8%	25.4%	24.3%	14.7%	5.1%	0.8%
2026/12/09	0.6%	2.7%	8.5%	17.8%	25.4%	24.3%	14.7%	5.1%	0.8%

出所) FED ウォッチ

<資料 P3>

——日本郵便が配達員に飲酒の有無などの点呼確認を適切に実施していなかったと報じられ、これに対して国土交通省が日本郵便に「日本郵便の自動車貨物運送事業の許可取消」処分を通知したといわれています。これがグレイ・リノとなり得るのは、なぜでしょうか？

日本郵便は「郵便物の配送ができない」「ゆうパックを廃止する」との一部報道や SNS 上の噂について否定をしています。しかし、配達遅延などで流通が混乱する可能性は残っているでしょう。

——日銀の利上げがグレイ・リノとなり得るのは、なぜでしょうか？

利上げによって円高が進行すると株安が進行する可能性があるからです。

——2024 年 10 月 27 日の衆議院選挙では自民・公明党が多くの議席を失い、少数与党となっていました。しかし、日経平均は底割れすることなく、レンジでの推移にとどまっています。今年 7 月の参議院選挙に、さらなるインパクトがあり得るのでしょうか？

あり得ると思います。政権交代にまでつながる流れとなるかに注目しています。

——今回の参院選挙（124 議席）で自公両党の獲得議席数が 55 未満にとどまり、参院で

も少数与党となることは、風に乗っている野党がないなか、なかなか考えにくいのですが、だからこそ、そうなればグレイ・リノとなり得るということでしょうか？

可能性は低いかもしれませんが。しかし、選挙は水物です。グレイ・リノとなる可能性はあるでしょう。

<資料 P4>

——米アトランタ連銀の GDP ナウ（米国の実質 GDP 成長率の計算に取り入れられるデータが更新されるたびに再計算をしていく予測値）を掲載したのは、なぜでしょうか？

景気の腰折れから利下げを期待しているトランプ大統領に対し、強い GDP（国内総生産）を理由に FRB（米連邦準備理事会）が利下げを拒む可能性があり得るからです。

しかも、6 日発表の米雇用統計でも強めの数字が出ました。これも利下げを急がせる理由にはなりませんでした。

——青い帯の上辺は高く予測している 10 社の数値、下辺は低く予測している 10 社の数値です。先生はここにも注目をされていますか？

通常は予想の幅にも注目しています。しかし、今回の数字は、かなり乖離しています。したがって、アトランタ連銀の予測値が今後も高止まりし続けるかに注視しています。

——これは米国の 25 年 4-6 月期実質 GDP 成長率が目先、低めに修正されているといえるのでしょうか、それとも 4%弱という高い数字にあるといえるのでしょうか？

予測値は若干低下してから反発してきました。高い数字は利下げの正当性を弱めるでしょう。

——米国の貿易収支を掲載したのは、なぜでしょうか？

トランプ関税の効果が表れた形ととれます。一方、実態は駆け込み輸入の反動で輸入額が減ったにすぎません。トランプ大統領が、どのような評価・発言をするかに注目しています。

<資料 P5>

——**米国での住宅価格の前年比上昇・下落率を掲載したのは、なぜでしょうか？**

住宅価格が米国の多くの地域で下落に転じていると示したかったからです。これは景気にマイナスでしょう。

——**住宅価格が一服しているのは、足元で CPI（消費者物価指数）が 2 % 台に落ち着いていること、また FRB（米連邦準備理事会）が政策金利を引き下げるか注視していることも影響しているのではないのでしょうか？**

一番大きな要因は FRB の金融引き締め策だと考えています。金利の低下は、ある意味、住宅価格の押し上げ要因ともなります。

<資料 P6>

——**トランプ政権と石破政権の方針の違いを表にまとめたのは、なぜでしょうか？**

トランプ政権がやっていることに対し、石破政権が何をしているかをまとめたものです。

——**トランプ政権による USAID（米国際開発庁）の解体で資金的に苦しくなった海外の機関を石破政権が支援することは、トランプ大統領の感情を逆なですることになるのでしょうか？**

トランプ大統領が、どうとらえるかですが、面白くないかもしれません。今後支障が出てくると、圧力がかかってくる可能性もあります。

——**WHO（世界保健機関）や OECD（経済協力開発機構）の機能を東京に移転する提案は、小池東京都知事の提案と報じられていますが、これも、トランプ大統領の感情を石破首相が逆なですることになるのでしょうか？**

トランプ大統領が、どうとらえるかですが、その可能性はあるでしょう。

——「日本は敵対する相手とのディールの最中で、いつも余計なことをしてくれる。そんな国に関税で譲歩できるか」とトランプ大統領が考えてもおかしくない、ということでしょうか？

その可能性を否定できないでしょう。

<資料 P7>

——世界的に OP（オプション）取引の対象となっている金融商品を掲載したのは、なぜでしょうか？

OP でトレードできる金融商品は、たくさんあります。その時々には旬な商品でリスクを抑えた運用ができると考えています。

——先生は最近、売坊流では OP が初めての人で日経 225 の CALL 売りに慣れた方は、米国株 OP や FX-OP の活用に視野を向けるべきだと、おっしゃっています。それはなぜでしょうか？

証拠金の暴騰リスクが軽減された取引ルールだからです。個人投資家に扱いやすい商品だと思っています。

<資料 P8>

——「ボラのお告げ」とは何でしょうか？

各種ボラティリティの関係から暴落・暴騰の予兆を察知しようとしたものです。

——「売坊ターゲットのお告げ」とは何でしょうか？

こちらにも統計的な数字を用いて暴落・暴騰の予兆を察知しようとしたものです。昨年 8 月や今年 4 月の急落前にも、そのお告げがありました。

——「マグマ指数」とは何でしょうか？

こちらはボラティリティの急上昇を察知しようとして独自に開発したものです。

——「ターゲット買い」とは何でしょうか？ 指値みたいなものでしょうか？

現在の値段よりも下の行使価格の PUT を売り、もしもそこまで値を下げたら現物を買うという戦略で、指値のようなものです。

ただし、現物の指値と違うのは、その値段で買えたとき、PUT 売りで受け取ったプレミアムの分だけ、さらに安く買えることです。また、そこまで値を下げなくて、買えなくても、PUT 売りで受け取ったプレミアムによる収入があります。

——「ロング＝ショート戦略」には例えば、どのようなものがあるのでしょうか？

例えば、以下のような組み合わせです。

- ◎新興国株買い＋日本株売り
- ◎ A 証券買い＋ B 証券売り
- ◎ジャンク債売り＋国債買い
- ◎日経平均売り＋TOPIX 買い

こうした発想から OP 同士で組むこともできます。

<資料 P9>

——米国株の銘柄選別サイト『FINVIZ.com』で OP 対象銘柄を列挙したのは、なぜでしょうか？

それぞれの IV にパターンがあり、そうした特性の理解はトレードに、とても重要な情報となります。

<資料 P10>

——インサイダー(内部関係者≡役職員・大株主)による自社株の売買報告を列挙したのは、

なぜでしょうか？

インサイダーが買ってきた銘柄は上昇の可能性を検討します。また、インサイダーが売ってきた銘柄は下落の可能性を考える必要があります。

<資料 P11>

——米国株・ETF-OP の人気銘柄を列挙したのは、なぜでしょうか？

これらの OP 市場にはかなりの厚みがあると分かります。

——PC レシオ（=PUT 残玉÷CALL 残玉）を赤字で囲ったのは、なぜでしょうか？

PC レシオは、その銘柄の取引に参加している人たちの思惑をみることができます。

——PC レシオは日経平均の分析にも使えるものなのでしょうか？

使えると考えています。なお、時系列データは自分自身で作成していく必要があります。

——PC レシオが低いほど高値期待が強く、また受取プレミアムによる収益に主眼を置くホイール戦略であれば、PC レシオの高い銘柄の PUT のほうが売りやすいということでしょうか？

米国株 OP の場合は、そうですね。PUT の建玉が多いということは下落の懸念があります。したがって、売りやすいともいえますが、リスクもあります。また、このレシオとともに IV の水準や業績などもみておく必要があります。

<資料 P12>

——先生が「サイバーセキュリティとネットワーク」関連銘柄に注目しているのは、なぜでしょうか？

情報の安全性は、とても重要な分野です。このセキュリティのニーズは、さらに高まっていくでしょう。

——先生が「ゲノミクスと最先端医療」関連銘柄に注目しているのは、なぜでしょうか？

今までにない医療分野の開拓になるからです。例えば、何億円もする CT 検査機器がいらなくなれば、医療はかなり変わってきます。

——先生が「ロボットと ASI（人工超知能）」関連銘柄に注目しているのは、なぜでしょうか？

洗濯物を畳んでくれるようなロボットが一家に一体の社会に近づいていくと考えているからです。また、人型ロボットが自動車生産の現場にも入ってくるでしょう。すでに一体 200 万円程度のレベルです。

——先生が「再生可能エネルギーと新たなスマート農業」関連銘柄に注目しているのは、なぜでしょうか？ 再生可能エネルギーと新たなスマート農業には関連があるのでしょうか？

生産性が格段に上がる可能性があるからです。低コストの再生可能エネルギーを使って AI によって管理された農業が近未来には常識となるかもしれません。

——こうした業種の低位株が将来大化けすることを期待して「これだけ安くなったら買取保有で上等」という価格の PUT を売るのが、ターゲット買い戦略でしょうか？

それもひとつです。一方、かなりの確度があるのであれば、ATM あたりの PUT 売ることも検討します。例えば、後述の PLTR（パランティア・テクノロジーズ）は株価が 15 倍になっています。

<資料 P13>

——データ分析会社である PLTR の IV（インプライド・ボラティリティ＝OP プレミアム

から逆算される変動性)を掲載したのは、なぜでしょうか？

こうした銘柄のIVの水準やパターンを分析することが、ターゲット買いにもカバードCALL戦略にも重要だからです。

——AIを活用したデータ分析会社であるBBAI（ビッグベア.ai）のIVを掲載したのは、なぜでしょうか？

PLTRは120ドルほどに上げた銘柄です。一方、BBAIは10ドル以下の銘柄です。

株価が高いとPUT売りにかかる証拠金も高くなり、また万が一、権利を行使された後に倒産となれば、大きな損失となります。

それぞれのIVのパターンを見ながら、リスクとリターンを考えて戦略が組みます。低位株にはリスク対リターンの関係が、かなり良いものがあると考えています。ちなみに、OPをトレードできる10ドル未満の銘柄が2025年6月6日現在、1275銘柄もあります。個人的には「お宝」がたくさんあるのです。

<資料 P14>

——OP戦略ポートフォリオによる分散運用例を掲載したのは、なぜでしょうか？

分散投資というと買いオンリーの国際分散投資が思い浮かびますが、ほかにも方法があります。

——各商品の期待収益率は運用資金に対する収益（リターン）でしょうか？

一例として示したものです。

——戦略配分を1～10の例で示したのは、なぜでしょうか？

各人のリスク対リターンの考え方、リスク許容度によって、さまざまな組み合わせがあるということを例示したかったからです。

【免責事項】

本テキストの図表・数値などは、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、その正確性・信頼性・完全性を保証するものではありません。

本テキストに掲載された情報・図表・資料は、あくまで情報提供を目的としたものです。証券など金融商品の売り買いを提案・勧誘するためのものとして、また証券など金融商品について助言・推奨するものとして、利用・解釈しないでください。

本テキストは一般向けに編集されています。特定の投資目的・特定の投資環境・特定の投資家を一切考慮していません。事前に専門家の適切な助言を受けるべきですし、最終的な投資判断は、個々人が個々の状況を考慮して、自らの責任で下すようにしてください。

本テキストに基づく行為の結果、発生した障害・損失などについて筆者およびパンローリング社は一切の責任を負いません。

本テキストに記載された URL などは予告なく変更される場合があります。

本テキストに記載されている会社名・製品名は、それぞれ各社の商標および登録商標です。